

○先駆者ヨハネ：キリストの証人に必要な二つの態度

1. キリストに_____ (19-23)

※マルコ 1:4-5

「バプテスマのヨハネが荒野に現れて、罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。そこでユダヤ全国の人々とエルサレムの全住民が彼のところへ行き、自分の罪を告白して、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。」

※マラキ 3:1; 4:5-6

「見よ。わたしは、わたしの使者を遣わす。彼はわたしの前に道を整える。…見よ。わたしは、主の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、のろいでこの地を打ち滅ぼさないためだ。」「

※ルカ 3:15

「民衆は救い主を待ち望んでおり、みな心の中で、ヨハネについて、もしかするとこの方がキリストではあるまいか、と考えていたので…」

※2列王記 1:8

「彼らが、「毛衣を着て、腰に皮帯を締めた人でした」と答えると、アハズヤは、「それはティシュベ人エリヤだ」と言った。」

※マルコ 1:6

「ヨハネは、らくだの毛で織った物を着て、腰に皮の帯を締め、いなごと野蜜を食べていた。」

※マタイ 17:12-13

「しかし、わたしは言います。エリヤはもうすでに来たのです。ところが彼らはエリヤを認めようとせず、彼に対して好き勝手なことをしたのです。…そのとき、弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを言われたのだと気づいた。」

※申命記 18:18

「わたしは彼らの同胞のうちから、彼らのためにあなたのようなひとりの預言者を起こそう。わたしは彼の口にわたしのことばを授けよう。彼は、わたしが命じることをみな、彼らに告げる。」

2. キリストの_____ (24-28)

※2 コリント 5:20

「こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。…」

「大使の仕事は、誰かや何かを代表することです。彼が行うことや話すことはすべて、物理的にその場にはいない指導者を意図的に表すものでなければなりません。大使の任務は、週 40 時間に限られたものでも、特定の国家行事や国際危機の時に限られたものでもありません。大使は常に王の代表なのです。…キリストの大使になるとき、私たちの人生はもはや自分のものではなくなります。自分の人生が王のものであることを認める必要があるのです。しかし、ここで私たちは問題に直面します。私たちは実際のところ、大使として生きたいと思っていません。むしろ、自分自身が小さな王として生きたいのです。私たちは自分が何を好むか、誰と一緒にいたいかを知っています。どのような家に住みたいか、どんな車を運転したいかも知っています。気付かないうちに、私たちは「私の望み、私の意志、私のやり方」という生き方にすぐに陥ってしまうのです。正直に言えば、私たちの心の中心にある祈りは、「私の王国が来ますように、私の意志が為されますように」です。だからこそ、キリストは弟子になるためには自分に死ななければならないと述べました。二人の主人に仕えることはできません。大使は、真の王を代表する前に、自らの王権に対して死ななければならないのです。」(ポール・トリップ)